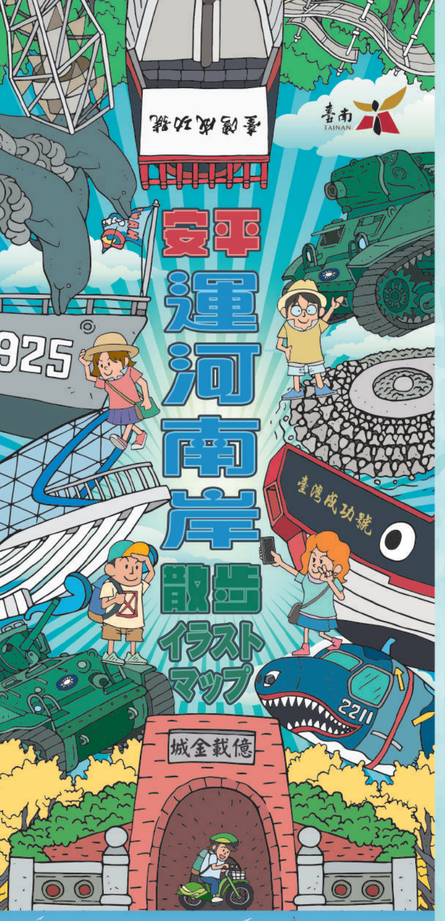
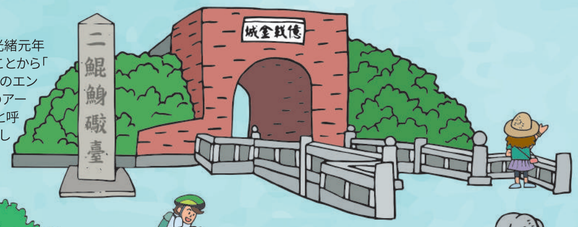


安平運河南岸散歩イラストマップ

億載金城(二鯤鯓砲台、国定古跡)

国定古跡で、かつては「二鯤鯓砲台」と呼ばれていました。光緒元年(1875) 沈葆楨の手によって「億載金城」の額が掲げられたことから「億載金城」と呼ばれるようになります。この砲台は、フランスのエンジニアによって作られた台湾初の西洋式砲台で、イギリスのアームストロング砲が初めて配備されました。当時台南は府城と呼ばれ、台湾で最も栄えていて「一府二鹿三艋舺」と言われました。府城(台南)の防衛能力を高めるために、この場所に西洋稜堡式の砲台が建設され、突き出した四つの角が砲台を囲うような作りとなっていて、深度2mの堀が城を守っています。



林默娘公園

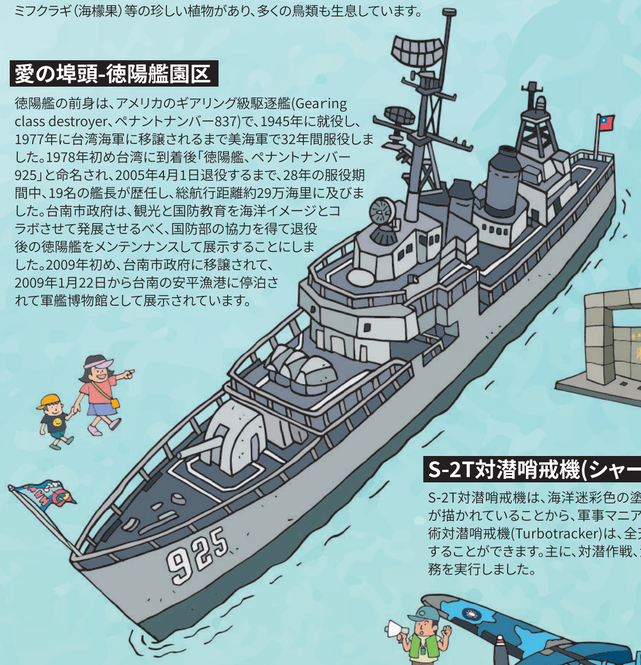
2004年、奇美文化基金会が出資し、建築士蔡宜璋の設計により建設されました。堂々とそびえる16mの林默娘の彫像は、廈門大学の教授李維祀により制作され、海風に長期間耐え得る「白峰石(花崗岩の一種)」が採用されています。彫刻で有名な中国の泉州惠安で制作された後、台南安平で組み立てられました。公園の名となっている「林默娘」は、親孝行で知られており、この公園の存在は、先人の開拓時の苦労に思いを馳せると同時に、感謝の気持ちを忘れてはならないと教えています。林默娘の彫像は、一般の寺廟に見られる彫像とは異なる少女の風貌が特徴で、安平漁港に船が入港する際、林默娘の慈愛に満ちた姿を目にして、温かく迎えられたという安堵と喜びを感じます。

億載公園

億載公園は、面積15.1ヘクタールで、台南最大の奇美博物館がある台南都会公園(40.9ヘクタール)に次ぐ、台南市で2番目に大きい公園です。「億載金城」の近くにはたくさんコガネノウゼン(黄花風鈴木)が植えられていて、毎年三月の始めには、美しい黄色の花が満開になり、訪れる人々の目を楽しませてくれます。他にも、億載公園内には、ハマビワ(潺槁樹)、グメリナ・アルボレア(雲南石梓)、アフリカバオバブ(猢猻樹)、ナンキンハゼ(烏桕)、ミフクラギ(海檬果)等の珍しい植物があり、多くの鳥類も生息しています。

愛の埠頭-徳陽艦園区

徳陽艦の前身は、アメリカのギアリング級駆逐艦(Gearing class destroyer、ペナントナンバー837)で、1945年に就役し、1977年に台湾海軍に移譲されるまで美海軍で32年間服役しました。1978年初め台湾に到着後「徳陽艦、ペナントナンバー925」と命名され、2005年4月1日退役するまで、28年の服役期間中、19名の艦長が歴任し、総航行距離約29万海里に及びました。台南市政府は、観光と国防教育を海洋イメージとコラボさせて発展させるべく、国防部の協力を得て退役後の徳陽艦をメンテンナンスして展示することにしました。2009年初め、台南市政府に移譲されて、2009年1月22日から台南の安平漁港に停泊されて軍艦博物館として展示されています。

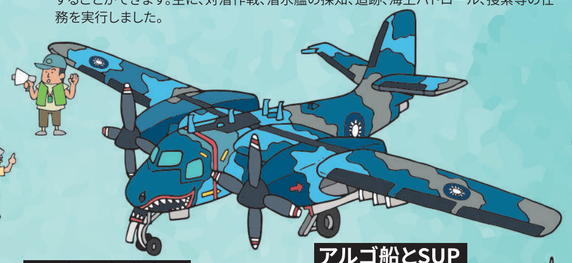


安平港浜歴史公園

港浜歴史公園は、「安平港国家歴史風景区」に属します。ここには、府城(台南)の歴史を表現したタイムトンネルがあります。東から西に、歴史の変遷を表現していて、先史時代(原住民光彫刻広場エリア)、オランダ・スペイン時代(王城羅針盤眺望エリア)、明鄭時代(屯田格状地景エリア)、清朝時代(台江変遷水景エリア)、日本時代(バロック光帯広場エリア)、民国時代(延伸階段滞留池エリア)そして展望時代(林默娘像のある高台)の7つのテーマに分かれています。

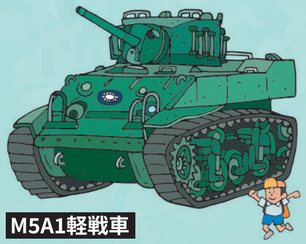
S-2T対潜哨戒機(シャーク機)

S-2T対潜哨戒機は、海洋迷彩色の塗装が施され、機首にサメの口をデザインした図柄が描かれていることから、軍事マニアに「シャーク機」と呼ばれました。S-2Tタービン技術対潜哨戒機(Turbotracker)は、全天候性の四人乗り高翼機で、爆雷及び魚雷を搭載することができます。主に、対潜作戦、潜水艦の探知、追跡、海上パトロール、捜索等の任務を実行しました。



M5A1軽戦車

M5A1軽戦車は、第二次大戦中アメリカが最も多く製造した軽戦車で、欧州の戦場でイギリス軍は、米南北戦争で有名なスチュアート(J.E.B. Stuart)将軍の名にちなんで「スチュアート」と呼びました。スチュアート戦車は、第二次大戦中、米軍及びその連合軍に最も広く使用されました。戦後、米軍はフィリピン、グァム、沖縄等の地に多くのM5A1戦車を残しました。アメリカまで運ぶ費用がかかるため、ほとんどが武器や通信機器を取り外しただけで、後は廃棄されました。当時の中華民国政府はアメリカと交渉して、これらの戦車を購入して上海まで運び、使用可能な車両や部品を選んで修理し、組み立て直して21台のM5A1戦車とし、2個の「連」を編成した後、台湾で短期間訓練してから前線の金門に配備しました。1949年共産党軍が大挙して金門を攻撃した際、このM5A1戦車が古寧頭戦役で大活躍したことで「金門之熊」と称えられました。



M8自走榴弾砲車

M8自走榴弾砲車は、アメリカで1942年に作られた高射角榴弾砲車で、スチュアート軽戦車の車体に榴弾砲の砲塔を組み合わせてあります。第二次世界大戦中には欧州、北アフリカ、太平洋の戦場で使用されました。中華民国は、1947年アメリカのM8自走榴弾砲車を譲り受け、陸軍装甲車両として配備しました。その総数257台で、金門の古寧頭大戦等の戦役にも就役しました。

アルゴ船とSUP

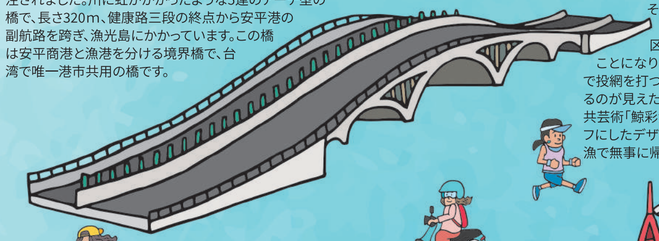
「アルゴ(ARGO)」という名は、ギリシャ神話に由来しています。伝説によると「アルゴ」とは船の名前で、古代ギリシャ人は当時最高級の木材でこの船を作り、この船に乗って金の羊毛皮を手に入れた後、この船を女神アテナに捧げたと言われています。ここは民間のヨットハーバー及びクラブで、クルーザー、SUP(スタンドアップパドルボード)等のマリンスポーツが楽しめます。

札哈木原住民公園

約400年前、台南の赤崁、安平一帯の台江内海沿岸は、ツォウ(鄒)族の人々が活動する地域だったと伝えられています。ツォウ語で府城(台南)は「札哈木」と言い、2004年台南市政府はこの地に「札哈木会館」及び「札哈木原住民公園」を設立しました。会館内にはレクチャー教室や展示空間があり、屋外には原住民芸術景石、原住民トーテム司令台、文化広場、展望台等が設置されています。また、「ツォウ族の日」、「音楽祭」や「バザール札哈木市集」等のイベントも開催されます。

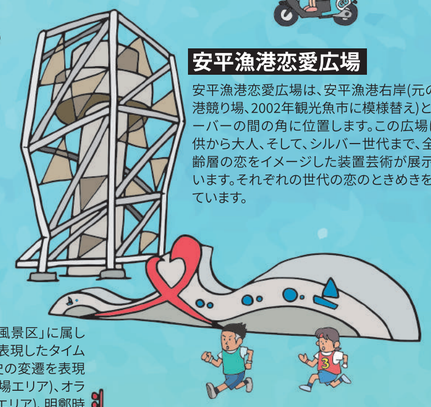
漁光大橋

2008年に完成した漁光大橋は、交通部高雄港務局が設計し発注されました。川に虹がかかったような5連のアーチ型の橋で、長さ320m、健康路三段の終点から安平港の副航路を跨ぎ、漁光島にかかっています。この橋は安平商港と漁港を分ける境界橋で、台湾で唯一港市共用の橋です。



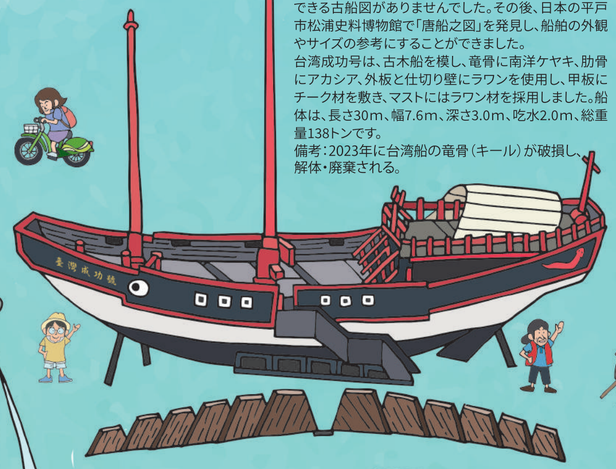
安平漁港恋愛広場

安平漁港恋愛広場は、安平漁港右岸(元の遠洋漁港競り場、2002年観光魚市に模様替え)とヨットハーバーの間の角に位置します。この広場には、子供から大人、そして、シルバー世代まで、全ての年齢層の恋をイメージした装置芸術が展示されています。それぞれの世代の恋のときめきを表現しています。



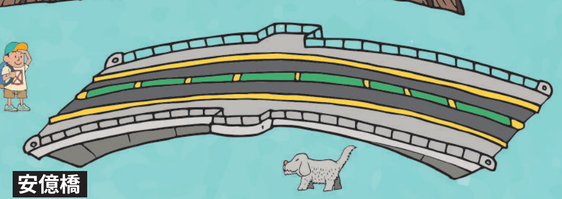
1661台湾船園区-台湾成功号

台南市政府が1661年に鄭成功がオランダを打ち払った船を復元しようとした際、台湾にも中国にも参考にできる古船図がありませんでした。その後、日本の平戸市松浦史料博物館で「唐船之図」を発見し、船舶の外観やサイズの参考にすることができました。
台湾成功号は、古木船を模し、竜骨に南洋ケヤキ、肋骨にアカシア、外板と仕切り壁にラワンを使用し、甲板にチーク材を敷き、マストにはラワン材を採用しました。船体は、長さ30m、幅7.6m、深さ3.0m、吃水2.0m、総重量138トンです。
備考:2023年に台湾船の竜骨(キール)が破損し、解体・廃棄される。



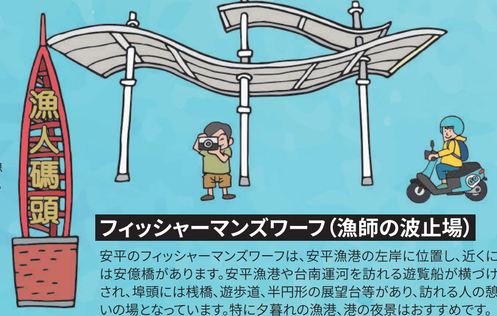
安億橋

安億橋は、漁港と運河を結ぶ境界線で、橋の西側が安平漁港、東側が台南運河です。台南運河は、台南市の市街地と安平をつなぎ、台湾総督府技師松本虎太の設計によるものです。工事は、1922年に始まり、1926年に完成しました。完成時の運河は全長3.782km、河面幅37m、干潮時水深1.8mでした。台南運河は、当時の安平港における航路を台南市街地まで延長させると同時に、台南市街地の道幅を広げるのにも役立ちました。



漁光島

漁光島は、かつて「三鯤鯓」と呼ばれていました。「鯤」とは、海の中の大魚-クジラを指し、「身」とはクジラの隆起した背部を意味します。16世紀、安平から南に向かって7つの砂州があり、北から順に「一鯤鯓」から「七鯤鯓」と呼ばれました。現在の地名では、それぞれ、一鯤鯓(現在の安平区安平古堡付近)、二鯤鯓(現在の安平区億載金城)、三鯤鯓(現在の安平区漁光島)、四鯤鯓(現在の南区鯤鯓)、五鯤鯓(現在の南区喜樹)、六鯤鯓(現在の南区湾裡)、七鯤鯓(現在の高雄市茄萣区白沙崙)ということになります。漁光島の地名の由来は、以前このあたりの漁民が夜夜で海に出て、外海で投網を打つ際、浮きの上にランプを灯して目印にし、海岸から見ると漁火が点々と灯っているのが見えたことから、「三鯤鯓」または「漁光島」と呼ばれたと言われています。漁光島の公共芸術「鯨彩漁光」は、「クジラの尾」と「逆巻く波」を組み合わせたもので、安平の海をモチーフにしたデザインとなっています。昔から、クジラの尾はラッキーアイテムで、これを見たら大漁で無事に帰港できると言われています。

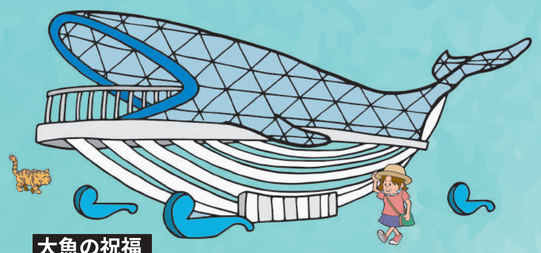


フィッシャーマンズワーフ(漁師の波止場)

安平のフィッシャーマンズワーフは、安平漁港の左岸に位置し、近くには安億橋があります。安平漁港や台南運河を訪れる遊覧船が横づけされ、埠頭には桟橋、遊歩道、半円形の展望台等があり、訪れる人の憩いの場となっています。特に夕暮れの漁港、港の夜景はおすすめです。

台南運河遊覧船

台南運河には、12の橋があり、第五期再開発地区と台南市内を結んでいます。西北の方角から時計回りに、安億橋、承天橋、望月橋、臨安橋、新臨安橋、金華橋、新南橋、永華橋、安工四號橋、樂利橋、健新橋、安平新港橋と12の橋が渡されています。遊覧船は、潮の様子を見ながら橋の下をくぐり抜けることもできます。ご利用の際は、台南運河と安平港の遊覧船業者にお問い合わせください。

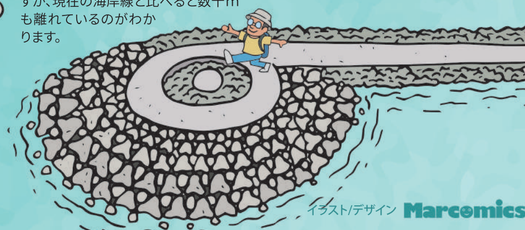


大魚の祝福

アーティスト楊士毅のデザインによる公共芸術-「大魚的祝福」は、2019年初めに展示が開始されました。クジラの形をした本体は、長さ23m、幅10m、高さ8mで、上半分がステンレスパイプを溶接した構成でラインの美しさが際立ちます。ネジは一本も使われていません。クジラの内部には台湾をモチーフにした造形がなされ、溶接されたステンレスパイプに、カラフルな釉薬を施して焼いたガラスを組み合わせた構成で、包容と豊かさの象徴を表現して台湾をイメージしています。作品全体の重量は20トンを超え、下半分はクジラの腹部のラインを描きながら、作品全体を支える構成となっています。「クジラのお腹」に入って、港の景色を楽しみ、夕陽を眺めるのは格別です。

月牙湾

漁光島外側の月牙湾は、大規模な人工海岸保護工事によって形成されたもので、安平商港北防波堤(右岸)及び漁港南防波堤(左岸)に、それぞれ長さ約350m及び300mの突堤が建設されて砂浜を保護する岬を構成しています。人工海岸保護工事は自然工法に属し、近年海岸保護のほとんどに採用されています。砂浜の保護と増加が可能で、海岸を保護する効果が期待できます。月牙湾は、2004年から現在に至るまで海岸の保護を続けていて成果が得られています。砂浜には古いテトラポッドが見られますが、現在の海岸線と比べると数十mも離れているのがわかります。



台南市政府 観光旅遊局
民治市政センター (局 本 部) 06-6353226
永華市政センター (旅遊服務科) 06-3901175

台南市トラベルサービスセンター

台湾国鉄(台鉄)
台南駅トラベルサービスセンター
台南市東区北門路二段4号
(06)2290082

台南空港トラベルサービスセンター
台南市南区機場路775号
(06)3359209

旧合同庁舎トラベルサービスセンター
台南市中西区中正路2号
(06)2219527

安平トラベルサービスセンター
台南市安平区安平路790号
(06)2281382

台湾新幹線(台湾高鉄)
台南駅トラベルサービスセンター
台南市帰仁区帰仁大道100号
(06)6008338

台南左鎮化石園区
トラベルサービスセンター
台南市左鎮区栄和里61-1号
(06)5732629

台湾国鉄(台鉄)
新営駅トラベルサービスセンター
台南市新営区中山路1号
(06)6378821

無米楽トラベルサービスセンター
台南市後壁区菁寮75号
(06)6622725

虎頭埤風景区
トラベルサービスセンター
台南市新化区中興路42巷36号
(06)5901325

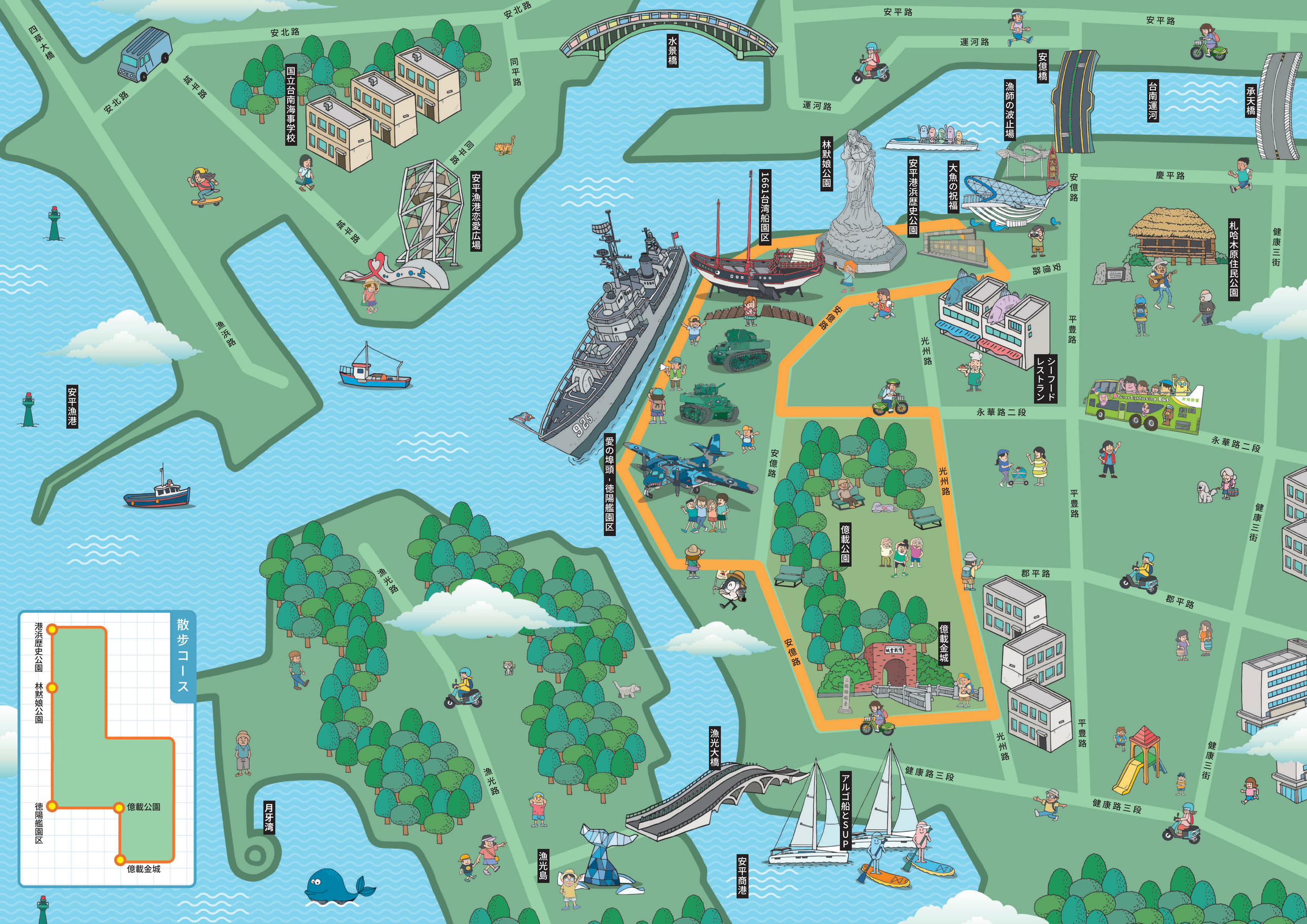
月之美術館
トラベルサービスセンター(塩水)
台南市塩水区中山路23号
(06)6324453

トラベルガイド
時間:毎週日曜日午前9-11時
集合場所:億載金城チケット売り場前広場(二鯤鯓砲台)(安平区光州路3号)

台南トラベルサイト
台南ホテルサイト
LINE@ 中日英語24時間オンラインサービス
台南トラベル FBファンページ
tripadvisor
路線バス位置情報(リアルタイム時刻表)
台南トラベルレビューを見る See reviews on Tainan
旅行台南 app
1999 台南市政府観光旅遊熱線 Helpline 1999 for Residents of Tainan City

2023.09 印製發行 「愛があれば、ジェンダー平等を恐るものはない」
広告

イラスト/デザイン Marcomics


四草大橋
安北路
安北路
安北路
城平路
国立台南海事学校
同平路
同中路
安平漁港恋愛広場
城平路
漁光路
安平漁港
水景橋
安平路
運河路
安平路
運河路
安億橋
漁師の波止場
台南運河
承天橋
林默娘公園
1661台湾船園区
安平港浜歴史公園
大魚の祝福
安億路
慶平路
札哈木原住民公園
健康三街
安億路
安億路
平豊路
光州路
シーフードレストラン
永華路二段
永華路二段
愛の埠頭-徳陽艦園区
安億路
光州路
平豊路
健康三街
億載公園
郡平路
郡平路
億載金城
安億路
光州路
平豊路
健康三街
漁光路
漁光路
漁光大橋
健康路三段
健康路三段
アルゴ船とSUP
月牙湾
漁光島
安平商港
散歩コース
港浜歴史公園
林默娘公園
徳陽艦園区
億載公園
億載金城